

令和5年度 国立市立国立第一小学校 学校経営方針

ver.令和5年4月1日

学校教育目標

「自分で考え 進んで活動する子」

○蓄えた知識や技能を活用して諸問題を解決する力

「力を合わせて 高め合う子」

○人を大切にする心や地域を愛する気持ちを表す行動力

「思いやり体を動かし 元気な子」

○心身の健康と自他の安全を目指す実践力

学校づくりのキーワード **人づくり 地域づくり 夢づくり** の実現に向けて

☆ほめて伸ばす 子供はもちろん、大人も

☆チーム一 組織的な分掌 諸課題への対応 同僚性の強化

☆地域との連携 保護者・地域はチームの一員 とともに伝統の構築を

個と学校を大切にする感染症対策

- 教職員・保護者・地域・児童の協働による「一小的新たな日常生活」の実践
 - ・「3密」の回避、手洗い・うがいと消毒等の励行を、児童一人一人の資質として意識させていきます。
 - ・差別や偏見の気持ちか起らないように、計画的に、そして、適時的に指導していきます。

「今だからできること」を基調とした柔軟でしなやかな教育課程の編成

- 「朝学習」（15分間の短時間学習）の実施による授業時間の安定的な確保
 - ・5・6年生は、英語科における15分×3の授業時間の効果を最大限に生かした授業を実施します。
 - ・1年から4年までの「朝学習」では、国語科や算数科の習熟過程を計画的に行います。
- 「深い学び」に繋がる授業の質的な転換と教育課題の重点的な対応
 - ・深い学びにつながる主体的な学びや対話的な学びを日々の授業で取り入れています。
 - ・人権課題を知る機会を各学年に位置付けて実施します。
- 「今だからできること」を基調とした行事や活動の実施
 - ・柔軟な思考としなやかな対応で新たな形の行事や学習を立案・実施をしていきます。

市や都の指針に基づいた校内体制の整備

- 一人1台端末の日常化に向けた実践と「オンライン学習」へのアプローチ
 - ・授業のツールとして、PCを日常的に使用していきます。
 - ・いろいろな場面を想定して、Google Classroomの活用を一般的なツールにしていきます。
 - ・「使う」から「使いこなす」に。そして、日常化の姿である「使うかどうかを各自が選択する」を目指します。
- 特別支援教育の推進
 - ・特別支援学級「杉の子学級」との交流学習を、各学年でさらに充実させていきます。
 - ・教室での学びを高めるために、特別支援教室「はばたき」での指導の共有を日常化させていきます。
 - ・担任との協働を通して、SS（スマイリースタッフ）による教室での個別支援をさらに充実させていきます。
 - ・校内委員会において、個に応じた適切な支援体制を考えて実施していきます。
- 働き方改革の推進
 - ・校務支援ソフト等を活用して、校務の時短やペーパーレスの会議を実践していきます。
 - ・教職員の時間外在校時間を週4.5時間以内に設定します。保護者への理解と協力も啓発していきます。
 - ・SSS（スクールサポートスタッフ）による校務支援の効果を、今年度も、さらに高めていきます。
 - ・学校と保護者との電話連絡の時間を8:00～18:00（※要検討）にします。

チーム一 7つの取組と150周年の取組

「開校150周年」を「チーム一」でレガシー※①に！

☆記念集会※①(9/25) ☆150周年学習発表会※②(11/17,18) ☆記念式典※③&祝賀会※④(1/26)

「共に語ろう150年」(仮) ※④

- ※① レガシー(Legacy)…「世から世に受け継ぐものこと」100周年での思い出が、今でも聞こえてくる一小的ならではのキャッチです。
- ※② 一小的の歴史を体験したり演じたり伝えたりしながら振り返ることができる場をつくりまします。学芸会に代わる保護者参加型の行事を行います。
- ※③ 市関係者や現在の一小を支えていただいている関係者等を招いた式典を行います。
- ※④ 一小到い思い出を誰しもが参加可能な祝賀会を立案中。一小的の思い出を地域のみならず語り合いたい。

その1 校内研究を通じた学力向上・授業力向上・組織的な教育力の向上・授業の質的転換

- 教員一人一人の指導スキル向上を目指した校内研究 →「国語」「道徳」「特別活動」を中心に据えた授業研究
- ゴールは「主体的・対話的な深い学び」 →学び合う姿が常に見える授業の実践

その2 地域や保護者、学校を支えてくれる人とのつながりを「ふるさと谷保プロジェクト」としてカリキュラム化に

- 世界企業「ヤクルト」との授業交流の復活を目指して →6年理科の発展として
- 城山「さとのいえ」との人・も・場所の交流 →稲作体験(5年)、ホタルが舞うふるさとに(3年)
- 谷保の自然と文化を教材化 →年間を通じた「城山探検」「湧水の散策・観察」3年で実施
- ASSの活用で学力向上 →担任との連携でいわゆる「補習」の展開への発展を
- 一小的の児童中心の本町学童クラブと支え合う関係に →連絡と連携の強化
- 一小的ソフトのメンバー発掘 →PTAサークルのソフトボールへの協力・支援
- 目指すは三中生、そして、幼保との連携強化 →スムーズな連携を目指した「かけはしプログラム」の立案と試行
- 地域の方を招いた授業の実施 →被曝体験の聴講、租税教室、薬育、人権教育、命の教育 etc.

その3 みんなでやれば学力が伸びる 学力の向上=指導力の向上

- 「わけをそえて」「伝え合い」を授業スタイルの根幹に →全ての授業で日常化を目指す。
- 基礎的知識や技能の習得 →全クラスで計画的な宿題の実施、朝学習(15分学習)の完全実施
- 各教科で問題解決型学習の実施 →課題把握、自力解決、検討、まとめを意識した授業(絞って効果的に)
- 学級づくりは授業力の向上から →望ましい学級経営、専科経営を目指して授業力で信頼関係を結ぶ。
- 学力調査で結果をだす。 →各学年での「絶対やりきるプロジェクト」今年もやりきる！

その4 個を大切にすることで初めてできる集団、日々の徳育

- 「杉の子学級」との交流学級、交流学習 →全ての学年で日々の連携。設置校ならではの相互交流の試行
- みんなが生き生きと生活する学級づくり →学校生活満足度調査「Q-U」と構成的エンカウンター活用の活用
- 「ほめる」「できる」「ほめる」の連鎖 →ほめられるように指導、成功、ほめるの流れを教師がつくる。
- 生命尊重の授業を全学年で実施 →クラスの中の配慮児童を生かした学習、学級経営を
- 「はばたき」による個別の指導を生かした日常の実践 →命の教育、いじめ撲滅を旗印とした道徳授業の実践
- OSS(スマイリースタッフ)による支援の協働 →各学級での指導や日常的な声かけを生かす。
- がんばりをみんなでたたえる雰囲気 →担任とSSの協働をさらに推進する。
- 幼保の園児との交流の促進 →表彰大歓迎。その日の朝の報告でも表彰します。
- 教職員の相互交流をさらに推進する。

その5 体力向上を目指したこれまでの取組を確実に実行する。

- 体力テストで結果をだす。分析を生かす。 →市の体育協会の指導の下、全学年で体力テストに備える。
- 体育の授業とともに、日々の全校での取組に期待 →長なわ、短なわ、持久走の強化月間等の計画的な取組を。

その6 だれもまねできない開校150年 その誇りと自慢

- 「自慢の一小」をPR 子供が、教員が →自ら「あいさつ」をみんなで。きれいな学校をみんなで。
- 手本は6年生。6年生を見上げる指導を伝統に。
- 組織的な校務運営。すき間を埋める教員の動きも自慢。
- 「ふるさと谷保」を見据えた谷保の魅力の共有を →地域行事の情報共有と参加の促進 4年生での「天神太鼓」の取組
- 「ふるさと」「国立市制50周年記念の歌」を歌い継ぐ。 →いろいろな行事で歌う。音楽の授業で計画的な指導の継続。
- 地域の願い、地区の子供会の参加率向上への一助 →夏休み前に、地区班集會を校内で開催する。

その7 安心・安全の実現

- 全ての教員で、朝の児童の登校を迎える。 →教室で迎える。玄関で迎える。校門で迎える。
- みんなで見守り「おかえりなさいの日」 →毎月1日実施。PTAの発案を、保護者、地域に広げていく。
- いじめ未然防止、早期発見、早期対応 →「見守りボランティア」発足に感謝
- 登校しづらい児童や不登校児童に寄り添う。 →報連相で「いじめ対策会議」の早期開催、早期対応
- 避難訓練、防災体験 →「Q-U」を活用した健全な学級経営、毎日の声かけ
- 「家庭と子供の支援員」による個に応じた支援と対応を。
- 6年間を通じた計画的な実施。これからも継続。